

～住み慣れた我が家で安心して暮らし続けるために～



“お薬手帳”を活用した 支援が必要な在宅患者への サポートを始めました

市では、医師・歯科医師・
薬剤師・訪問看護師・ケアマ
ネジャー・社会福祉法人などの
専門職と行政が連携し、「お薬手帳を活用し
た在宅患者の薬の管理のしくみづくり」を
すすめています。



▼薬の管理に対する意識を持つために

これまで、医療・福祉・介護が連携して在宅
で医療を受ける皆さんの支援を目的に、まずは
皆さん自身に薬の管理
に対する意識を持つて
いただくため、市で
は「お薬手帳1冊運
動」に取り組んできま
した。



▲啓発ポスター

▼必要な情報や生活上のアドバイスを お薬手帳に記録します

今回、サポートが必要な患者さんに対して、
薬が飲んでいるかどうかの確認や、必要に応じ
た生活上のアドバイスなどを、医療・福祉・介
護の関係者がお薬手帳に記録する取り組みを始
めました。

記録された情報を共有することで医療・福祉・
介護の関係者同士の連携ができ、また、サポー
トが必要な在宅患者さんやその家族との関わり
が深まるなど、患者さんへのより良い支援につ
ながると考えています。

▼ご自身の情報を記入して 受診時にはいつも持参しましょう

お薬手帳は、患者さんをサポートするための
大切な情報となります。この取り組みをより良
いものにしていくためにも、お薬手帳は1冊に
まとめて、アレルギーや薬による副作用などが
あれば記入し、病院を受診する際はいつも持参
してください。

〳お薬手帳を〴〵第2のカルテ〴〵に〳

皆さんは病院を受診するとき、保険証は
持っていますが、お薬手帳を持っていくのを
忘れてしまうことがありますか。

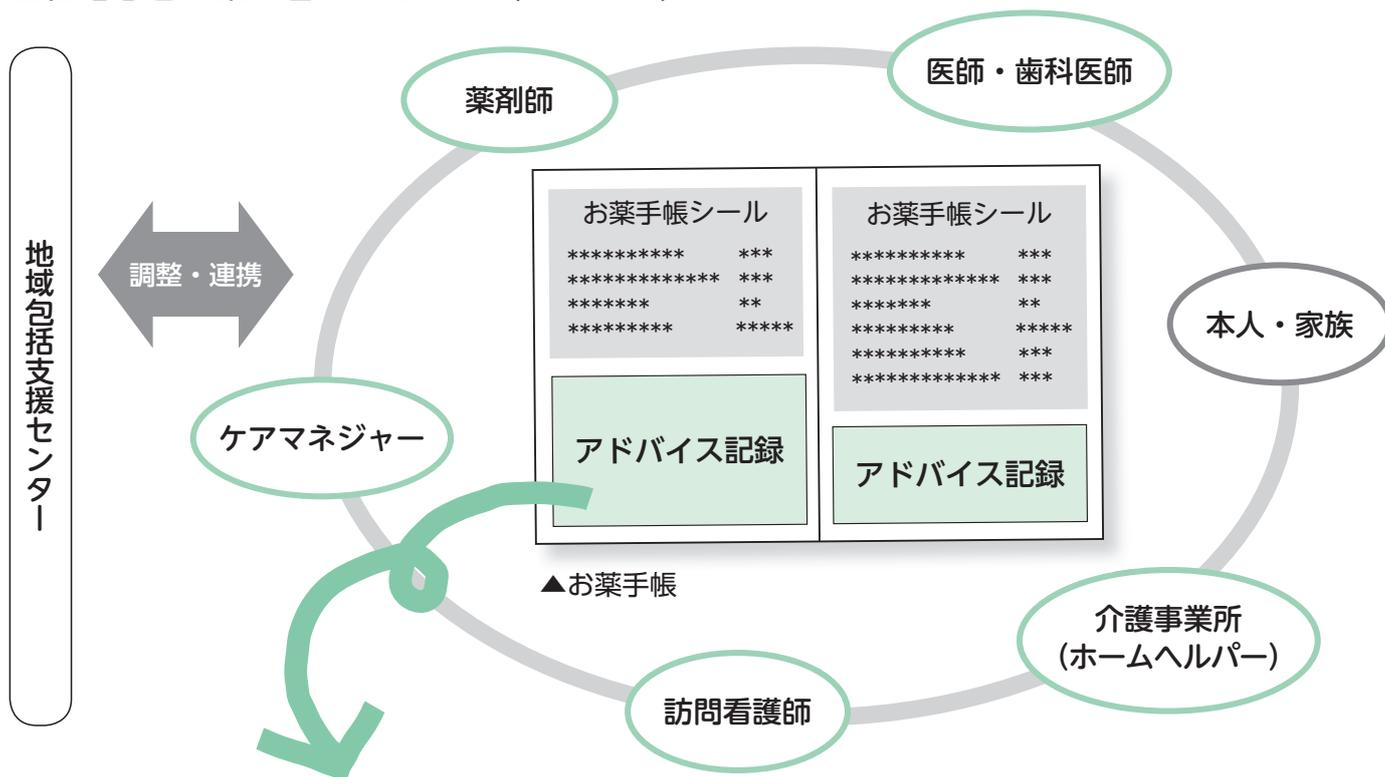
お薬手帳は、実は使い方次第で〴〵第2の
カルテ〴〵にもなるほど大切な働きをするも
のなんです。お薬手帳に記入できるのは薬
剤師だけではありません。患者さん本人や
そのご家族、ケアマネジャーなどが気付い
たことを直接書き込んでいくことで、医師
や薬剤師との連絡簿として気軽に活用する
ことができます。今回は、そのきっかけづ
くりとして、連携シールを使ったサポート
から始めていきます。

お薬手帳は患者さんに関わる人であれば
誰もが活用で
きるという認
識で、みんな
で連携して支
援を進めてい
きたいです。



伊賀医師会
猪木 達会長

■在宅患者の薬の管理のしくみ（イメージ）



◎アドバイス記録として、必要に応じて
お薬手帳にこのようなシール（連携シール）を貼ることがあります。

記入者	記入日	月	日
お薬の確認	飲めている ・ 残っている ・ 変更あり		
メモ			

患者さんの
服薬状況を
確認します。

「伊賀流」お薬手帳活用術！

メモ欄には、必要に応じて、医師・歯科医師・薬剤師・ケアマネジャーなどの専門職が患者さんへのアドバイス（薬の変更による飲み方の助言や残薬の確認など）を記録する場合があります。

▶医師による記入例

「薬を変更したので体調に変化があった場合は連絡してください。」

▶薬剤師による記入例

「次回、残っている薬の種類や数を聞かせてください。」

「市オリジナルお薬手帳カバー」をぜひ活用ください

市では、介護保険や障がい福祉サービスの利用者に対して「伊賀市オリジナルお薬手帳カバー」を配布しています。

このカバーには、ケアマネジャーの名刺や家族の連絡先を書いたメモなどを入れるポケットがあり、裏面には相談窓口の連絡先などが記載されています。ぜひ活用ください。

【問い合わせ】

医療福祉政策課 ☎ 22・9705 FAX 22・9673